

大地震対応 マニュアル 学生用

～ 常時携帯してください ～

大地震が発生した場合は、本マニュアルを参考に行動してください。

国立大学法人
東京農工大学

(2022.4.1)

① 地震発生

●自分の身を守る

- ・窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる
- ・薬品から離れる。
- ・机の下等へもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆う。
- ・火気使用時は、身の安全を確認のうえ消火する。
- ・ドア付近の人は、余裕があれば出口を確保する。
- ・エレベーター内では全ての停止階ボタンを押し、停止した階で降りる。
- ・屋外では、塀や建物から離れる。
- ・広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み揺れが収まるのを待つ。

② 揺れがおさまったら

●心構え

- ・冷静に落ち着いて、周りの状況を把握する。
- ・建物の傾き、壁・天井の崩れ（危険性）を確認する。
- ・火災発生時、安全な範囲で助け合い初期消火をする。
- ・負傷者がいたら、安全な範囲で助け合い応急手当をし、近くの事務室等に連絡する。

●自身が負傷した場合

- ・大声で助けを呼ぶ。
- ・声が出ない場合は音を出す（周囲の人に気づいてもらう）

●発生後数分経過後の対応

- ・余震に備え、窓・ドアを開け、避難ルートを確保する。
- ・ガスの元栓を締め二次災害を防ぐ。
- ・電気器具のスイッチを切り、プラグを抜く。
- ・化学物質は棚等へ整理する。

●本学の避難場所

- ・大学では以下の場所を一次避難場所としています。ただし、災害時の状況によっては、より安全な場所へ避難してください。

府中地区
・グラウンド
・本館前
・福利厚生センター前広場
・農場

小金井地区
・グラウンド
・14号館前保存緑地
・講義棟前保存緑地
・5号館南側駐車場

●通学中の場合

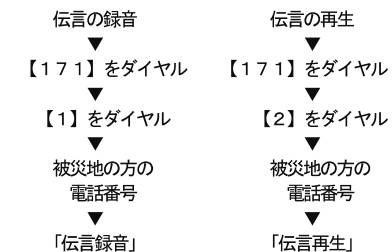
- ・周辺の状況に注意し、身の安全を守る。
- ・塀や建物等から離れ落下物にも注意する。
- ・事前に家族と決めた避難場所に移動する。ただし、状況によって別の避難場所に移動する。
- ・公共交通機関に乗車中の場合は、乗務員の指示に従い、安全に行動する。

③ 落ち着いたら(1)

●家族との安否連絡

・電話で確認

NTT災害用伝言ダイヤル



- ・公衆電話は優先してつながるので、テレホンカードは常時携帯しているとよい。

・インターネットで確認

NTT災害用伝言版

<https://www.web171.jp> (web171)
へアクセス

携帯各社の災害用伝言版

- ・各自で予め確認しておいてください。
(事前の登録が必要です)

④ 落ちていたら(2)

●帰宅するか、大学に残るか

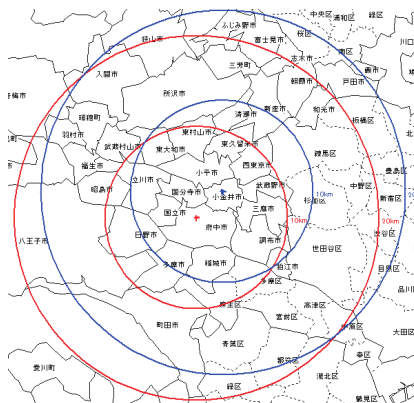
- ・徒歩で帰宅する場合の一般的な目安
10km以内：帰宅可能
10～20km：個人の運動能力等による
20km以上：帰宅困難
- ・地震の規模、時間帯、体力等により、臨機応変に判断し決して無理をしないこと。徒歩での帰宅が困難な場合は、公共交通機関が運行し始めるまで待ちましょう。

●帰宅する際の注意点

- ・大学や指導教員等の指示を待って帰宅を開始すること。
- ・周りの状況を確認してから帰宅すること。
- ・なるべく複数で帰宅すること。特に日没後の行動は危険です。
- ・状況に応じて大学に引き返すことも考える。

●大学から10km、20kmの地図

赤：府中キャンパスから 青：小金井キャンパスから



⑤ 大学への安否連絡

・大地震（震度6弱以上）が発生した場合、必ず自ら大学に安否の連絡をしてください。その際、電話連絡は極力控えてください。

・インターネットによる連絡

本学緊急連絡サイト
<http://tuat-anpi.jp/>



※STメールに通知されます

・はがきによる連絡

(インターネットが利用できない状況の場合)
・表題を「安否報告」とし、氏名、所属、学籍番号、本人や家族のけがの有無、自宅や実家の状態を記入し、以下へ郵送する。

〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1
東京農工大学 学務部学務課

※研究室配属の学生は可能な限り指導教員への連絡も併せて行ってください。

日頃の準備 ~教室・研究室~

- ・非常口、非常階段、避難場所はどこか。
- ・消火器の設置位置はどこか。
- ・廊下等に避難の妨げとなるものを置いてないか。
- ・帰宅ルートおよび所要時間の確認をしているか。
(災害時徒歩約2.5km/h)
- ・家族との連絡方法および待ち合わせ場所を決めているか。
- ・研究室の関係者の緊急連絡先を把握しているか。
- ・照明器具、棚、薬品、実験器具等の転倒・落下防止はしてあるか。
- ・高圧ガスボンベの転倒防止はしてあるか。
- ・菌株等の入っている容器の落下・破損防止はしてあるか
- ・実験動物等は逃げ出さない構造になっているか。

緊急時個人情報

学籍番号	
所属	
フリガナ氏名	
緊急連絡先	
住所	
電話番号	
生年月日	年 月 日
血液型	
持病	
常備薬	
アレルギー	

※記入後は、自己の責任において紛失しないよう管理すること

⑥ 大学からの連絡

●休講・授業再開等のお知らせ

・決定後、発信可能な方法（本学ホームページ、入学時に大学が配布したメールアドレスへの配信、新聞などのメディア）によりお知らせします。

大学ホームページ：<http://www.tuat.ac.jp/>

本学緊急連絡サイト：<http://tuat-anpi.jp/>

日頃の準備 ~自宅~

- ・照明、棚、たんすなどの転倒防止はしてあるか。
- ・避難場所を知っているか、避難経路を決めているか。
- ・非常持ち出し品を準備しているか。
- ・水、食料は最低3日分（出来れば1週間分）を準備しているか。

●非常持ち出し品の例

貴重品	現金、預金通帳、印鑑、免許証、学生証、健康保険証
非常食品	乾パン、アルファ米、缶詰、栄養補助食品、水、紙皿、割り箸
ラジオ・ライト	携帯ラジオ、懐中電灯、予備乾電池
応急医薬品	絆創膏、傷薬、包帯、常備薬、解熱剤
その他	リュック、下着、上着、靴下、軍手、雨具、洗面用具、タオル、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、ライター、ポリ袋、生理用品、缶切り、栓抜き、ろうそく、カイロ、マスク、携帯充電用具、筆記具

家族の情報

●家族の連絡先

名前	連絡先

●家族の行動表

名前	日頃いる可能性の高い場所

家族の集合場所	避難先